



子ども 歴史 **なぜなに?** 相談室



枴とお米のはなし

今、さまざまなものをはかるための容器があるけど、特にお米を専用の容器ではかるのなぜなのかな？

ものをはかるための基準を度量衡どりょうこうといいます。度は「長さ」又は「さし」、量りょうは「容積」または「ます」、衡こうは「重さ」又は「はかり」のことをいいます。

これらの基準は、ものを交換したり、売ったり、買ったりする時にどうしても必要なものでした。なぜかって？ だって、同じ基準がないと不公平になるでしょう。「枴」は容積を量はかるための基準なんだけど、例えば、商人が穀物を量るときに、仕入れる場合には少し大きい枴を使い、売る場合には少し小さい枴を使ったりすることがあったんだ。これでは不公平だよ。

そこで、世界中の政治家のトップは、不公平がないようにその基準を作りました。

日本では、天下統一をした豊臣秀吉によって統一の枴を使うことになりました。その後、江戸幕府がそれを受け継いで、現在まで続いています。

日本の場合、豊臣秀吉以降は、お米がどれだけ取れるかを土地の評価の基準にしていました（石高こくだか制）。税もお米で納めたので、お米を量るための「枴」が大切でした。

ところで、お米1俵って何kgか知ってますか？ 正解は約60kgです。これは、江戸時代の1俵が4斗とで1俵と決められたからです（1斗は約15kg）。1俵の60kgという単位は、実は今も使われていて、お米の取引価格を決める時の基準になってるんだよ（平成25年4月の広島県産のコシヒカリの取引価格は60kg当たり15,879円です注）。この時、量るお米は玄米げんまいと言って精米していないものなんだけど、江戸時代の年貢（税）も玄米で量っていたんだよ。

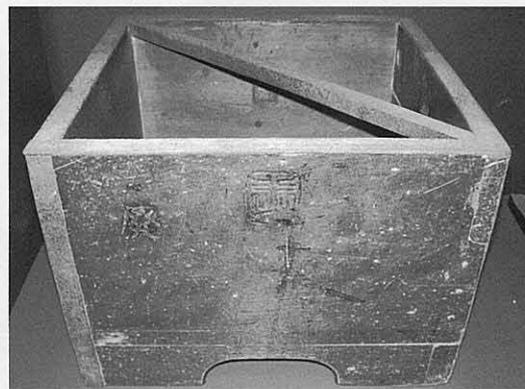
炊飯器は今も「〇合炊き」で売っていたりして、お米を量る単位が私たちの現在の生活にも残っていることがわかるよね。

それ以外にも、例えばお酒やしょうゆなどの1升瓶も、1.8ℓが単位として使われているし、冬にはストーブなどの燃料として「灯油」を買うけど、ポリタンクの容器も18ℓ（1斗）が単位として使われているよ。

注 農林水産省ウェブ・サイトより

1俵 = 4斗と (米60kg)
 1斗 = 10升しやう (米15kg)
 1升 = 10合ごう
 ※1合 = 約180ml (米150g)
 1石いし = 10斗 (米150kg)

容積の単位



当館の常設展示室で展示している1斗枴

(主任学芸員 岡野将士)